

## 県立大沼高等学校

教科名等：家庭科「家庭総合」

単元(題材)名：生命を育てる

発達と保育へのサポート

学 年：第3学年

### 実施状況

子育てを通して男女共同参画の在り方を考える機会とするため、男性の育児休業取得者の体験記を班別に準備し、ワークシートにまとめて発表させた。現在、男性の育児休業取得率を上げるために様々な取り組みがなされているが、取得率はまだまだ目標にはほど遠い。そのような中で積極的に男性が育児休業を取得した事例を知ることにより、性別に関係なく、男女の協力の下で子育てに積極的に取り組む姿勢を育みたいと考えた。



### 児童・生徒の感想

- ・ 夫婦一緒に子育てをするということは、夫婦のコミュニケーションが深まり、仲も良くなるだろうし、何より、子どもに対する“愛おしい”という気持ちがより一層膨らんでいくと思うと、将来の子育てがとても楽しみになった。
- ・ 育休を取っている男性の少なさに驚いたが、職場環境などを考えると育休を取るのが大変だということが理解できる。その中で積極的に育休に取り組む人も多くて素晴らしいと思った。
- ・ 育児は一生に一度しか経験することができないので後悔したくない。育休がとても大切な制度だと思った。また、世の中が男性の育児休業取得について理解して積極的に勧めてくれば、女性の負担も減ると思った。
- ・ 将来、夫にも育児休業を取ってもらいたいと思った。事例の中に、上司からの勧めで短期間取得したものもあったが、きっかけは主体的ではなくても、結果として理解が深まっていた。このことから、理解も必要だが制度を整えることも重要なのだと分かった。



### 参観者の感想

- ・ 育児休業取得者の体験を資料として使用したことは、育児休業について身近な資料として捉えることができたと思われる。班ごとに事例が異なるので、共有化を深める工夫もほしかった。班ごとに話し合った内容を発表する場面では、生徒の発表や聞く態度も良好で本時の学習課題に真剣に迫ろうとする取り組みが見られた。
- ・ 男女共同参画社会の実現という視点で、高等学校第3学年の「家庭」の授業がどのように行われているのか、大変興味を持って参観した。教師側が用意した資料もA4の両面と読解力を要する内容であるが、各自熱心に読んでワークシートに答えようとしていた。課題に対して意欲ある取り組みが見られた。

### 指導者の感想

卒業を間近に控えた生徒に、男女が協力して子育てに関わろうという意識を抱かせるよいきっかけにできたように思う。社会人となった時に、子育てを支援する様々な制度があることを理解させ、主体的かつ積極的に取り組んでいる良い事例に触れることによって、前向きな考え方を導き出すことができた。参観者の助言を踏まえ、授業の展開や時間配分の工夫・改善に努めたい。